

1、開催年月日時刻及び場所

平成20年9月26日

自 午前10時0分
至 午後5時15分
於 第1別館第1会議室

2、出席委員の氏名

委員長 押淵礼子君
副委員長 山田朋子君
委員 松田正民君
" 吉川 豊君
" 黒田成彦君
" 山田博司君
" 堀江ひとみ君

【 中略 】

5、県側出席者の氏名

総務部長 中村法道君
学事文書課長 百岳敏晴君

【 中略 】

○押淵委員長 皆さん、おはようございます。

【 中略 】

何かご質問はありませんか。

◆黒田委員 長崎県公立大学法人の業務実績評価について、一通りこの概要を読ませていただきました。

【 中略 】

県立大学といえば、今、県政をにぎわせておりますバイオラボの破綻の問題なんです、バイオラボ社長は長崎県立大学シーボルト校の久木野教授であります。

【 中略 】

ということは、本当にリーダーシップを発揮できているんですか。この経営破綻に対して、今、大学としてどのようなお気持ちを持って教授たちとの連携をしているのか、まず伺います。

◎百岳学事文書課長 バイオラボの件でございますけれども、委員がおっしゃいましたように、バイオラボ株式会社というのは長崎県公立大学法人の初めての大学等発ベンチャー企業でもございまして、長崎県公立大学法人そのものは、このバイオラボ株式会社と直接的ないわゆる関与というものはございませんが、委員ご指摘のとおり、法人の教授がバイオラボ株式会社の役員に就任をしています。しかも、それは代表取締役として就任をしています。このことについていわゆる兼業許可を与えているわけですが、こういう兼業許可という側面的な形で支援をし、そして、初めての大学等発ベンチャー企業が上場企業に成長することを期待していただけないか、今回このような事態になったということに対しては非常に残念なことだと思っておりますし、大学の方からもそういうふうな報告を受けております。

【 中略 】

◆黒田委員 バイオラボの運営そのものは、この委員会で取り扱うべき項目ではないと思いますので、経済労働委員会にそれはゆだねますけれども、ただ、大学の業務実績に関する報告書に目を通します時に、例えば、栄養健康関連分野において、生活習慣病予防のための基礎的研究などに取り組んだとあります。まさに、久木野教授はこれが専門のはずなんです。片や、中国の事業を6億円単位で立ち上げようとしたり、長崎に本社を置こうとしたり、いろんな立ち回りをしている中で、本当にこの研究がきちんと評価されているのかどうか。やっぱり今回の事件を通して、県民は不信感を抱いていますよ。どうなんですか、この評価というのは適正なんですか。ちゃんとその教授は、業務を果たしてきたんですか。

◎百岳学事文書課長 先ほど申し上げましたように、ベンチャー企業に対するいわゆる兼業の許可、これは国の国立大学の部分と同じような条件で、一定の条件をクリアした場合に許可をしているわけございまして、その許可の条件の中に、「本来の大学の業務に支障がないこと」という前提で許可をいたしております。

今回、このような事態になったということで、私どもの方から大学の方に、久木野先生は大学の業務に対してどんなだったのかということをお聞きしたところ、ちゃんと与えられた自分の授業のコマ数もすべてやっているし、教授会、そして学内における各種委員会の構成の時にもちゃんと出席をしていて、そして、研究論文についてもそれぞれの時期に発表されているということで、学内の業務そのものについてはちゃんと実施しているという報告を受けております。

◆黒田委員 大学といわゆる兼業についてのベンチャーの取り組みは別個だと、大学ではちゃんとやっているからというふうに聞こえてくるんですが、私は今回のこの一件で、いわゆる大学等発ベンチャー創出事業というのはガタガタと音を立ててなくなっていくんじゃないかと思うんですよ。議会でこれだけベンチャーに出資した県は何を考えているんだと批判が集まっています。

【 中略 】

責任は重いと思いませんか。いやいや、それは側面的には兼業を許可しています。大学ではちゃんとやっていますからで終わるのか。この信用失墜を、県立大学として、公立大学法人として、この教授に何らかの処分なり勧告なりしないんですか。このままでいいんですか。（発言する者あり）

◎中村総務部長 まず、先ほど黒田委員から、学長・理事長のリーダーシップを発揮しながら今後取り組んでいくというような説明を申し上げた件についてお話がございましたけれども、基本的にはやはり学長・理事長は、公立大学法人としての代表者の立場でありますので、バイオラボの経営そのものには対応すべき立場ではありません。したがって、そのリーダーシップを発揮するのは、公立大学法人の運営の分野であるべきであると考えております。

【 中略 】

現在のところ、先ほど学事文書課長からご報告をさせていただきましたように、大学における活動そのものについては、特段欠けている面等は見られないということでありましたので、その他の分野、例えば、経営活動の中でどのような状況であったのか、もっと実態を解明の上、そういった事実に基づいてしかるべき対応が必要であれば、しっかり対応してまいりたいと考えているところでございます。

◆黒田委員 大学等発ベンチャーなんです。単なるベンチャー事業を手がけたわけじゃなくて、大学の研究の延長にあるわけなんです。もちろん形状的には分離されているとはいえども、やっぱり大学所属の研究者のこういった破綻にかかわった問題としては重要に考えなきゃいけないし、「ええ、学内ではちゃんとやっていますから無傷です」と言われても、それは県税が幾らかそれに投資されたということを考えれば、これは納得できないと思いますよ。

【 中略 】

◆山田〔博〕委員 黒田委員が今言いました件です。今、学事文書課長と総務部長の話をお聞きしましたら、バイオラボの件で兼業許可を出したと言っていましたけれども、兼業許可を出したおかげでこういったことをやったということだったら、「それは経済活動でありますから、私たちは関係ありません」というのは、それはだれが聞いたって納得しません。やっていいですよと許可を出

したわけですから、それだけにある程度の責任がかかってくるわけですから。

【 中略 】

今までの話を聞いていたら、「私たちは関係ありません」とか、そういうことを大学生の保護者が聞いたら言語道断、今の話を聞いていたら怒り心頭です。自分たちの子どもがそうなったらどうですか。お父さん、お母さんは、絶対私に同感しますよ。

【 中略 】

いかにも「私たちは関係ありません」というそんな答弁じゃ、何とっていいのかわからない、言語道断です。いかがですか。

◎中村総務部長 確かに、今回の一連の事件が、公立大学法人そのものに信用を含めて影響がなかったかという点、そうであるとは私も考えておりません。

ただ、先ほど委員がおっしゃったように、いわゆる不祥事で、あるいは信用失墜行為があったのかどうか、そこは私どもも重大な関心を持ってこれから実態解明に努めて、しかるべく説明を公立大学法人としてもしっかりやっていけるための努力はやっていく必要があるんだろうと思います。

◆山田〔博〕委員 総務部長に最初からそういったお言葉をいただければ、私もなるほどなと思ったわけです。

それと、総務部長がバイオラボの件について前向きというか、決意をいただいたので、あまり言うことがなくなってきたんですが、一つだけお尋ねしたいんです。先ほど、大学の研究とか、行事とかには支障がなかったと言っていましたけれども、これだけの事業をしていたら、だれが考えても大変だと思うんですが、バイオラボの経営、活動をいつどうなさっていたのか。結局、大学の方は一生懸命やっていたんでしょうけれども、実際、大学等発ベンチャーと二足のわらじをはくことはできていなかったのかと、社長としての責任は果たしていなかったのかとなるわけですね、今の話を聞いていたら。

【 中略 】

◎中村総務部長 私どもも実態がどういう形で推移してきたのかという点を含めて、企業振興・立地推進本部が財団を所管しております、そちらから情報等をいただこうとしているんですが、いわゆるバイオラボに関する社長業務としての詳細な活動の状況というのは詳しく聞いていない状況でございます。

ただ、反面、大学側としては、先ほど申し上げたように、兼業の許可を与えておまして、それはおのずといつでもいいという許可ではありません、土日、祝日でありますとか、1日3時間以内とか制限をつけた許可になっておまして、例えば1日のうちに3時間ぐらい業務で外したという場合には、例えば夕方から9時ぐらいまでしっかり業務に携わるとか、そういう勤務状態であったということをお聞きいたしております。

【 中略 】

◆山田〔朋〕副委員長 大学の方は側面的なかわりがあったということですが、大学の職員で、バイオラボに役員として入っていた人がいたとかということはございませんか、お尋ねします。

◎百岳学事文書課長 バイオラボに対して、いわゆる兼業許可をしているというのは代表取締役の一人でございます。ほかにはおりません。

◆山田〔朋〕副委員長 大学の職員はもちろん公務員ですよね。であれば、もう退職した人も含めて1人もいないと認識してよろしいですか。

◎百岳学事文書課長 公立大学法人の教職員は、公務員ではなくて非公務員でございます。そして、バイオラボに関係する人は、代表取締役の教授1名のみと聞いております。

◆山田〔朋〕副委員長 わかりました。

こういったことで、大学は当然ながら学生が通っております。そして、今も現役で教えていらっしゃると思うんですが、保護者も含めて、学生の動揺とか、スムーズに授業等が行われているのかどうか、その状況を教えてください。

◎百岳学事文書課長 久木野教授そのものは週に大体5コマぐらい授業を持っておられまして、この部分もちゃんと休講にすることなく授業に出ていると聞いております。そして、9月頭の公開講座等々の部分についても、そこでちゃんと司会業務、コーディネーター等をやっていると聞いております。

◆山田〔朋〕副委員長 授業の方はわかりました。

例えば、学生とか保護者からクレーム等があったかと思うんですけども、自分の大学の教授がこういうことがあったということで新聞ざたになったようなニュースを受けて、学生、保護者も含めてそういう相談とかというのは大学の方になかったんでしょうか。

◎百岳学事文書課長 大学から、そのようなお話があったということは伺っておりません。

【 中略 】

○押淵委員長 それでは、正副委員長に一任願いたいと存じます。

これをもって文教委員会を閉会いたします。

長時間ご苦労さまでした。